

# 平成20年度 姉妹自治体交流表彰

## ■ 対象となる事業

姉妹交流事業のうち、都道府県及び政令指定都市から推薦を受けた24団体について審査しました。

## ■ 姉妹自治体交流表彰審査委員会

委員長	中邨 章	明治大学政治経済学部教授
委員長代理	榎田 勝利	愛知淑徳大学文化創造学部 学部長
委員	有田 典代	特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会 事務局長
委員	大野 慎一	財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 学長
委員	工藤 裕子	中央大学法学部教授
委員	孔 怡	FMCOCOLO パーソナリティ
委員	毛受 敏浩	財団法人日本国際交流センター チーフ・プログラム・オフィサー
委員	植松 浩二	総務省自治行政局国際室 室長
委員	上田 紘士	財団法人自治体国際化協会 専務理事

## ■ 審査の経過

姉妹自治体交流表彰審査委員会において、姉妹自治体交流表彰(総務大臣賞)実施要綱を基に審査を行い、審査対象の24団体のうちから、最終的に総務大臣賞の受賞候補として3団体、審査委員会特別賞の受賞候補として1団体を選定しました。

平成20年 8月	各審査委員による事前審査
平成20年 10月	第1回審査委員会
平成20年 11月	各審査委員による表彰候補団体の推薦
平成20年 12月	第2回審査委員会

## ■ 受賞団体

総務大臣賞	当別町(北海道) 高山・デンバー友好協会(岐阜県高山市) いちき串木野市・サリナス市姉妹都市協会(鹿児島県いちき串木野市)
委員長代理	榎田 勝利

# 平成20年度 姉妹自治体交流表彰

Fiscal 2008 International Affiliation Exchange Commendation Award



# ごあいさつ



総務大臣  
鳩山 邦夫

この度、姉妹自治体交流表彰を受賞された関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

姉妹自治体交流表彰は、日本と海外の姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富んだ取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、姉妹自治体交流の更なる活性化を図り、地域の国際化を進めていくことを目的として、平成18年度に創設したものです。総務省としましては、各団体における姉妹自治体交流を通じて地域住民が国際感覚を育むことにより、一層地域の国際化が推進され、更には地域の活力の創造につながることを期待しています。

今回、審査委員会による厳正な審査の結果、北海道当別町、岐阜県高山市の高山・デンバー友好協会、鹿児島県いちき串木野市のいちき串木野市・サリナス市姉妹都市協会の3団体が総務大臣賞に、また、京都府が審査委員会特別賞に選ばれました。

受賞団体関係者の皆様には、他団体のモデルとして、地域の特性をいかした交流活動を今後も末永く続けられることを期待するとともに、今回惜しくも受賞を逃した団体関係者の皆様におかれましても、今回のこの機会を更なる国際交流推進の励みとしていただけるよう祈念します。

平成21年1月27日



財団法人自治体国際化協会  
理事長 香山 充弘

財団法人自治体国際化協会は、地域の国際化を推進する地方公共団体の共同組織として、昭和63年(1988年)に設立されました。以来、当協会では、地方自治体の姉妹提携・交流を促進するため、国内外の情報を収集、発信するとともに、希望に応じて姉妹提携・姉妹交流のあっせんを行うなど、地域のニーズに合った国際交流が行われるよう支援してまいりました。

これらの取組を通して、平成20年12月末現在で1,574件の姉妹自治体提携が結ばれており、全国各地で地域の特性に応じた交流が展開されています。その中でも特に先進的で他の模範となる取組みを称えとともに、全国に発信することを目的に創設したこの表彰制度ですが、これまでに総務大臣賞として5団体、審査委員会特別賞として1団体を表彰してまいりました。

そこで、当協会では、創意と工夫に富んだ姉妹自治体交流を行っている団体を表彰するとともに、その取り組みを全国に広く紹介するため、平成18年度に「総務大臣賞」を創設し、姉妹自治体交流の活性化と地域の国際化の促進に努めています。

第3回にあたる今年度は、審査委員会による厳正なる審査の結果、総務大臣賞3団体、審査委員会特別賞1団体を表彰することとなりました。

今回受賞された4団体は、いずれも地域の特性を活かした国際交流を継続的に、かつ誠実に実施してきたことが高く評価されたものであります。関係各位のこれまでの御尽力に敬意を表しますとともに、ここにその栄誉を称え、謹んでご報告申し上げます。

平成21年1月27日

# 総務大臣賞

## 当別町(北海道)

相手方自治体



レクサンド市（スウェーデン王国） 提携年月日：1987年10月5日



姉妹都市提携20周年記念式典



姉妹都市提携20周年記念オープニングパレード



北海道 当別町  
人口：19,103人



スウェーデン王国 レクサンド市  
人口：15,338人

### 概要

当別町とレクサンド市は、当別町内へのスウェーデンヒルズ（スウェーデンの街づくりを取り入れた住宅地）誘致を契機として、1987年に姉妹都市提携が結ばれました。以来、ヒルズ内に建設された、スウェーデン交流センターを交流の拠点とし、北欧の伝統的なお祭りである夏至祭の開催、経済団体や青少年による相互訪問等、着実に交流を重ねています。

中でも、今年度で25回目を迎えた夏至祭は、これら姉妹都市交流の証として継続されており、本場の精神を受け継ぐ全国的にも数少ないお祭りとなっています。

また、昨年度に実施された姉妹都市交流20周年記念事業にあたっては、7割以上の町民が事業に携わるなど、交流が町ぐるみの取組みへと発展しています。

さらに、近年では、スウェーデンの国会議員が当別町を訪問するなど、国レベルでも一定の評価を受け、スウェーデンと日本の自治体による模範的交流と言われるまでになっています。

### 評価のポイント

- ⇒ 双方の地域特性を十分に生かした交流で、北海道庁・北方圏センター、スウェーデン大使館など多様な主体が上手く連携しており、地域活性化に成果が見られる。
- ⇒ 「夏至祭」を核とした交流事業は、町ぐるみの活動に発展している。また、レクサンド市においても日本デーの開催、日本公園の造成等、積極的な取組みがなされるなど、双方向で活発な交流が行われている。

# 総務大臣賞

## 高山・デンバー友好協会(岐阜県高山市)

相手方自治体



デンバー市（アメリカ合衆国） 提携年月日：1960年7月29日



第12次高校生デンバー派遣(平成19年) デンバー市長表敬訪問



第11次デンバー高校生訪問団来高(平成18年) 斐太高校生徒と交流



岐阜県 高山市  
人口：95,213人



アメリカ合衆国 デンバー市  
人口：575,927人

### 概要

高山市とデンバー市は、「歴史的伝統を有する山岳観光都市」であることなどの共通点から、1960年に姉妹都市提携が結ばれました。

提携から約半世紀に渡り、親善使節団の相互派遣をはじめ、文化、スポーツ、教育、経済分野等、幅広い交流を、市民により組織された高山・デンバー友好協会が主体となって行っており、現在もさらにその広がりを見せています。

この長く活発な交流は人種や言葉の壁を越えて共に協力し、交流を進めるという意識を市民に広げるものとなっており、このことは、高山市が国際観光都市として、急増する外国人観光客を迎え入れる「おもてなしの心」の基礎となっています。(外国人観光客数 平成14年 48,449人、平成19年 132,300人)

### 評価のポイント

- ⇒ 過去の交流だけでなく、現在も多方面に、また、将来に向けても明確なビジョンがある。
- ⇒ 市民主体の交流が定着し、約半世紀に渡り継続している。この交流が国際観光都市として、外国人観光客を迎え入れる市民の意識に結びついている。

# 総務大臣賞

## いちき串木野市・サリナス市姉妹都市協会 (鹿児島県いちき串木野市)

相手方自治体



サリナス市 (アメリカ合衆国) 提携年月日: 1979年5月27日



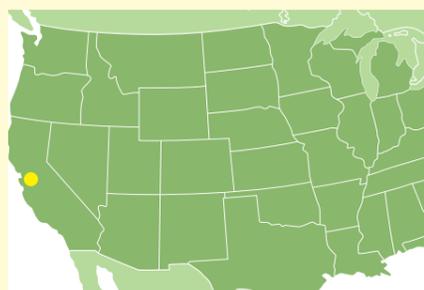
派遣中高生も参加して行われたサリナス市での姉妹都市盟約調印式



さのさ祭りで御輿を担ぐサリナス市からの派遣高校生



鹿児島県 いちき串木野市  
人口: 31,833人



アメリカ合衆国 サリナス市  
人口: 148,350人

### 概要

戦後、難民救済法により移住した人たちの異国の地で成し遂げられた尊い経験、開拓者魂を郷土串木野の青少年の中に培い、また、在米串木野出身者の二世・三世の心の中に祖先の郷土を生きし続けることが、市の発展につながるとして、いちき串木野市とサリナス市は1979年に姉妹都市盟約を締結しました。以来、いちき串木野市・サリナス市姉妹都市協会を中心に交流の促進と強化を図っています。

交流事業の中心となっている中高生派遣事業は、単なる国際交流としての視野を広げるだけでなく、移住者の方々から本物の開拓者魂を学べるよう計画されており、この移民の歴史から得られる今日的な意味合いは多くの示唆に富んでいます。

また、移住者を通じて、市内の果樹生産団体の訪問が行われるなど、裾野の広い交流へと広がっています。

### 評価のポイント

- ➡ 鹿児島県からカリフォルニア州への集団移民の歴史を背景に、長年交流を継続し、日本では移住者の志を忘れない取組みをしながら、アメリカでは日本への理解を深めるとともに、これを青少年などの人材育成につなげている。人口減少社会を迎えた今日の日本にとって、多文化共生を考える上でも示唆に富む取組みである。
- ➡ 地域の特徴や歴史的な意義を活かし、市民レベルの草の根の交流を地道に長く続けている。

# 総務大臣賞 審査委員会特別賞

## 京 都 府

相手方自治体



陝西省 (中華人民共和国) 提携年月日: 1983年7月16日



陝西師範大学の学生と京都府立北桑田高校の生徒が協働して植林



このてがしわ 300本などを植林



京都府  
人口: 2,636,071人



中華人民共和国 陝西省  
人口: 37,480,000人

### 概要

京都府と陝西省は、古くは唐の時代から様々な分野で活発な交流が行われており、古都としての共通点も多いことから、1983年に友好提携を締結し、以来、行政・民間レベルで幅広く友好を深めています。

その中で、平成18年から始まった高校生林業技術国際協力事業は、それまでの植樹協力事業に、林業の専門学科を設置している府内高校の生徒が参加する形で継続されたものですが、環境に焦点をあてて取り組んでいるこの事業は、京都議定書誕生の地として地球温暖化対策に積極的に取り組む京都府ばかりでなく、深刻な砂漠化が進む陝西省においても、非常に意義深いものとなっています。

また、植生調査、森林育成から木材加工までの一貫した活動を高校生がハード・ソフト両面から支援する取組み、地元学生との交流の効果は、環境に関する青少年の意識改革の面でも成果が現れています。

### 評価のポイント

- ➡ 京都議定書誕生の地として地球温暖化対策に積極的に取り組む京都府の特色のある事業であり、高校生を主体として林業技術国際協力活動と環境教育活動等を行うという先進的取組みである。
- ➡ 交流内容に環境というテーマ性があり、この交流を通じて青少年の国際協力に対する意識が高められている。